

## 親子・子どもの居場所づくり～地域につながりをつくる

子どもの未来サポートオフィス代表 米田佐知子

<http://kodomomirai-so.com/>

### 1 自己紹介～親子・子どもの居場所について

神奈川への転入・出産・孤育て 居場所がない  
地域・社会とのつながりの薄さ

### 2 子どもの年齢×テーマ×形態＝親子・子どもの居場所の多様さ

- 乳幼児親子の「ひろば」
- 「冒険遊び場（プレイパーク）」「みちあそび」
- 「こども食堂」
- 「学習支援活動」「生活支援活動」
- 学校内での「居場所」活動（高校内居場所カフェ）
- 障がい児、不登校の子ども等の「フリースクール」
- 外国につながる子どもの「母語教室」「学習支援活動」
- 不登校・引きこもりや障がいのある子ども「フリースペース」「就労支援活動」
- 障がい児の「放課後デイサービス」
- 「保育園」「学童保育」 など

### 3 こども食堂について

こども食堂とは…

子どもが1人でも来られる場所で、地域の人が、無料・低額で食事を提供している

- 背景にある3つの子どもの貧困・・・「経済的な貧困」「関係性の貧困」「経験の貧困」  
→3つのコンセプト（米田による整理）「措置型」「居場所型」「食育型」  
＝全ての子ども達が対象となり得る
- 全国の広がり…2,286 か所（2018年3月、こども食堂安心安全向上委員会集計）  
神奈川県内169 か所（2018年3月、子どもの未来サポートオフィス集計）  
横浜市内73 か所（2018年3月）
- 子どもに関心を寄せて活動しようとする新しい層。ポイントは、市民の自発性と多様性

#### 4 横浜のこども食堂（71件・2017年7月横浜市社協調査）

- 会場：飲食店・コミュニティカフェ、お寺・神社・教会、個人宅開放・公共施設、町内会館など
- 実施者：地域団体・地域ボランティア 34 か所（50%）社会福祉法人・NPO 法人  
・株式会社・民間レストラン・公共施設を運営する指定管理者
- 開催回数：月1回＝40 か所、週1回以上＝11 か所
- 子どもの参加料金：無料＝20 か所（30%）100円＝34 か所（50%）
  
- 参考：「横浜こども食堂ネットワーク準備会」  
<https://www.facebook.com/yokohama.kodomoshokudou.network>